

熊本、私の2番目の故郷

アルビ スルヤ サトリヤ リドワン
ARBI SURYA SATRIA RIDWAN

2015年9月、私は初めて日本に、正確には熊本に来ました。その目的は交換留学のためでした。インドネシアで生まれ育った私は、母国から約5000キロも離れた熊本に旅をしました。驚いたことに日本に5年半も住んでいます。私にとって他国に5年半も住んでいるのは長いと思います。しかもインドネシアに次いで長くに住むなんて熊本一度も思っていませんでした。私をここまで導いたのは運命だと信じています。

子供の頃から、私は日本を深く知る人ではありませんでした。しかし、子供の頃から私を含めほとんどすべてのインドネシアの子供たちは、毎週日曜日の朝にテレビで放送されるドラえもんやクレヨンしんちゃん、ポケモンなどのアニメを通じて日本文化に触れています。初めて日本に来たとき、私は英語しか理解できず、日本語はまったく話せませんでした。大学在学中、日本で生活しやすくなるように日本語の授業を受講するよう先生にアドバイスされました。私の印象としては、日本語、特に漢字が非常に難しいです。

また、私は日本で貴重な体験をしました。それは2016年の熊本地震でした。海外でひどい自然災害に見舞われたのはその時が初めてで、大変ストレスを感じました。その地震の影響で熊本大学体育館に一週間も過ごしました。他の人と一緒に寝なければならず、地震が発生するたびに「地震です！地震です！」と携帯電話が鳴りました。でも、日本の自然災害について知りたいと思ったのも初めてでした。

その後、2017年に文部科学省から奨学金をもらって、日本とインドネシアの自然災害に関する研究をテーマに熊本大学の修士・博士課程で勉強を進めました。私の研究分野は都市デザインであり、2016年の熊本地震と2018年のインドネシア・パル州の地震津波のマネージメントについて学びました。その後、博士課程では、熊本人吉での2020年の洪水災害における災害後の復興について研究しました。インドネシアの自然災害対策は日本に比べて非常に遅れているので、自然災害について学ぶことにとても興味を持ちました。自分が学んだ知識が将来多くの人々の命を救うのに役立つことを本当に望んでおり、また日本の良いところを他のインドネシア人に教えたいです。

そして今、2021年がもうすぐ終わり、2022年を迎えようとしています。2022年9月に熊本大学博士課程を卒業するので、今年が熊本での最後の年になります。大学での勉強だけでなく、日常生活の中で、お年寄りを尊重したり、周りの人に親切にしたりするなど、新しいことをたくさん学びました。いつまでも、熊本は美しい物語が込められた私の心の第二の故郷です。場所への愛情は長い時間をかけて少しずつ高まっていき、その記憶のおかげで強い感情的な愛着が育ちます。私自身の熊本に対する気持ちも同じです。熊本での私の美しい話は、子供ができれば何度も伝えます。ありがとう、私の熊本。またね、私の熊本。